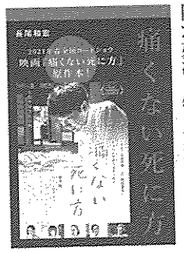
痛くない死に方

2月20日公開

人間の死は誰にも止められない。在宅医療のスペシャリスト、長尾和宏医師の同名著書を柄本佑主演で映画化。ベテランの高橋伴明監督が渾身（こんしん）の感動作に仕上げた。尊厳死という重いテーマだが笑える場面もある。坂井真紀、大谷直子、奥田瑛二ら脇役陣が好演。特に末期がん患者を熱演の宇崎竜童が素晴らしい。



在宅医療に従事する医師の河田仁（柄本）は、昼夜関係なく呼び出されて忙しい。ある日、苦しみながら死亡した患者の娘（坂井）に診断ミスを責められる。彼は先輩在宅医の長野（奥田）に相談し、長野の現場で多くのことを学んだ。

2年後。河田は末期の肺がん患者で在宅介護を望んだ本多彰（宇崎）を担当する。大病院の専門医と在宅医の違いは何だろうか。彼は患者の人生に寄り添い、痛くない死に方を実行する…。

原作は2000人の最期を看取った在宅医が平穏死の視点で死に方を解説した入門書。大橋巨泉や川島なお美らの例をあげながら分かりやすく書いている。病院の延命治療を希望しないなら「救急車を呼ぶな！」に説得力がある。

樹木希林と同じように枯れて死ぬにはどうすればいいのか、肉親や自分の最期を考えるために大いに役立つ。

長尾和宏著『痛くない死に方』（ブックマン社、1000円＋税）

観てから読むか 読んでから観るか 原作本

映画評論家・垣井道弘

あのこは貴族

2月26日公開

同じ空の下、婚活の箱入り娘と金欠娘の人生が交錯する。山内マリコ氏の同名小説を門脇麦、水原希子、高良健吾の共演で映画化。メガホンはデビュー作『グッド・ストライプス』で注目された若手の岨手由貴子（そで・ゆきこ）監督。豪邸に住んで高級店で食事するリッチな生活は憧れだが、幸福とはかぎらない。

東京の上流家庭に生まれ何不自由なく育った榛原華子（門脇）は恋人に振られ、結婚の相手探しに奔走している。彼女は義兄の紹介で財閥の御曹司だという弁護士の青木幸一郎（高良）と会って夢中になり、彼のプロポーズを待ち望んだ。

富山県の田舎町で育った時岡美紀（水原）は猛勉強をして東京の名門大学に合格する。だが父親の失業で大学を中退し、水商売で出会った幸一郎と愛人関係になる。その幸一郎と婚約した華子は親友（石橋静河）の仲立ちで美紀に会うが…。

原作の華子は3人姉妹の末っ子で父親が経営している病院の後継者と結婚する必要があった。そのためのお見合いにことごとく失敗。名門大学に合格し上京した美紀は仕送りを止められてお金に困り水商売に深入り。目に見えない階級社会の枠の中で葛藤する女たちの実像に迫っている。

山内マリコ著『あのこは貴族』（集英社文庫）、640円＋税

星屑（ほしくず）⑭

村山由佳

ステージ4 突破口（1）

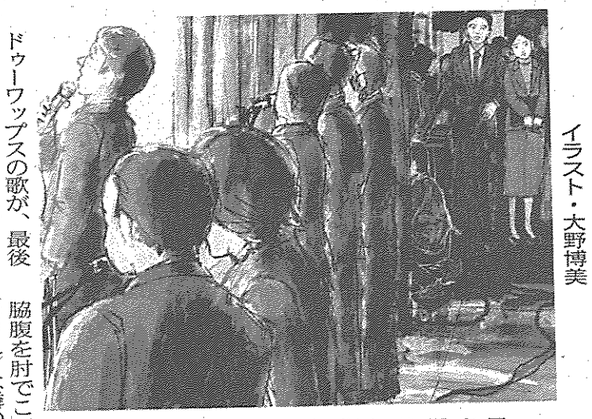
「あの子、あれからどうしてる」

桐絵は眉をひそめた

激しい振り付けとともに歌い終えたピンキーガールズの二人が、客席からの拍手と歓声に応えてにこやかに手をふる。ステージにはまばゆいスポットライトが降り注ぎ、衣装に縫い留められた無数のスパンコールを星のように輝かせる。

ほんのわずかな間の後にオーケストラは次の曲のイントロを奏で始め、下手（しもて）へはける二人と入れかわりに奈落からセリに乗って現れたのは、前原つよしとドゥーワップスの六名だ。ピンキーガールズが〈動〉なら彼らは〈静〉、港町を舞台にした大人の歌謡曲をたっぷりと歌いあげる。

舞台袖、床に何本ものケーブルが這（は）い回る暗がりでは、マネージャーが汗だくのピンキーガールズを椅子に座らせ、それぞれに上着と飲みものを差しだしている。露出度の高い衣装だけに、風邪をひかせたりすれば責任問題だ。


イラスト・大野博美

ドゥーワップスの歌が、最後のサビをくり返している。

この次、トリを務める城田万里子（しろたまりこ）が登場して、昨年後半大ヒットした『雨降る街角』に続く新曲『漁火（いさりび）』を歌い終わったなら、出場歌手全員で舞台に並ぶ……というおなじみの流れだ。

「なあ」

脇腹を肘でこづかれ、桐絵（きりえ）は隣の峰岸（みねぎし）を見やった。

分厚いビロードの幕が幾重にも折りたたまれた舞台袖は、ステージがまぶしければまぶしいほど濃い影を作る。

「何ですか」

てっきりまた、城田万里子の機嫌を損ねないように早めに段取りしておけ、とか何とか言われると思ったのだが、

「あの子、あれからどうしてる」

桐絵は眉をひそめた。なぜそれを峰岸が気にするのか。

「……あの子、とは」

「とぼけんなよ」

峰岸の声に苦笑いがにじむ。

「たしか、ミチルっていったっけ？　このごろ見ないけどどうした、ん？」

挑発には乗るまい。この男が親切心から訊（き）いているわけはないのだから。

「なあって」

村山由佳（むらやま・ゆか）　1964年東京都生まれ。立教大学卒業。会社勤務、塾講師などを経て、93年『天使の卵〜エンジェルス・エッグ』で小説すばる新人賞受賞。2003年『星々の舟』で直木賞受賞。主な著作に中央公論文芸賞、柴田錬三郎賞、島清恋愛文学賞を受賞した『ダブル・ファンタジー』、『放蕩記』、『風は西から』、近著に『風よあらしよ』がある。

ビジネス川柳

定年後
辛抱と

『最後の人声天語』 坪内祐三著

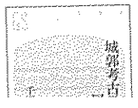
だ。文学、など、観察眼た同連

『うんこの博物学』 ミダス・デッケルス著／山本規雄訳

の博物学排泄（はいせつ）であり、タであり

雑誌にがある。月刊「して親し

『城郭考古学の冒険』 千田嘉博著



城跡の発史料など分して歴史を城を築い

クレオ。のでしょ人類の れない深

ではわか かになっ 「日本の 多様な城